

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 25 日現在

機関番号：33910

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21592728

研究課題名（和文） 臨地実習指導者の役割に関する研究

研究課題名（英文） The study of the essential role of clinical nurse instructors

研究代表者

山田 聡子（YAMADA SATOKO）

中部大学・生命健康科学部・准教授

研究者番号：80285238

研究成果の概要（和文）：本研究は臨地実習指導者に期待される役割の明確化を目的とした。既存文献からの抽出結果と看護教員を対象にしたフォーカスグループインタビュー結果から臨地実習指導者の役割を精選し、臨地実習指導者の役割を示す 58 項目を設定した。この項目を用いて看護教育および臨地実習指導の専門家を対象にしたデルファイ法による調査を実施し、31 項目の臨地実習指導者に期待される役割が明らかになった。期待される役割に対する実習指導者自身の認識についても調査し、結果の分析を進めている。

研究成果の概要（英文）：The object of this study is to identify the expected roles of the clinical nurse instructor. Based on the results extracted from the literature and the results of focus group interviews with nursing instructors, we carefully selected the roles of the clinical nurse instructor and determined 58 roles. Using these items, we surveyed professionals in nursing education and clinical practicums using the Delphi survey and identified 31 expected roles for the clinical nurse instructor. We are now surveying instructors for recognition of the expected roles for further analyses.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：臨地実習、実習指導者、看護教育

1. 研究開始当初の背景

臨地実習は現場のダイナミクスの中で知識と技術を統合させる貴重な学習の機会であり、看護学教育に不可欠な教育方法である。その臨地実習において臨地実習指導者は、教員では補えない臨床現場での学びを支援する存在であるとともに、患者の療養プロセスと学生の学習プロセス、そして看護スタッフの業務とを連結する重要な機能・役割を担っている。

臨地実習指導者は、厚生労働省もしくは都道府県が主催する指導者講習会にて養成されており、看護学実習を受け入れる病院施設では、スタッフを指導者講習会へ順次派遣し臨地実習指導者の増員に努めている。

講習会を修了した臨地実習指導者は、講習会に派遣される前の看護単位に戻るようになる。医療制度改革への対応、特に、平均在院日数が短縮化されたことにより増加した重症患者への看護が主体となった繁忙な医療現場で臨地実習指導者は、一看護要員としての機能・役割と共に臨地実習指導者としての機能・役割の両方を求められることになる。

平成 15 年の「看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書」では、臨地実習において学生に実施させる技術項目水準の明確化や、無資格者である学生の看護行為の範囲、そして臨地実習における患者からの同意の必要性が明記され、臨地実習の考え方が確認された。この報告書にあるように、臨地での医療安全確保を強化する一方で学生の技術能力を育成する機会が限定されてしまう問題が指摘されている。臨地実習指導者は、上述した繁忙な医療現場において、医療安全確保と学生の技術能力育成という両面を担保する位置づけとなり、多重な負荷

を負っている現状が推察できる。

臨地実習指導に関する先行研究では、教員の教授過程を分析した研究成果は発表されているが、臨地実習指導者については、その役割・機能の解明に着目する研究は未だ少ない。そのため、臨地実習指導者は数週間の養成講習会で得た知識を唯一の拠りどころに、各自が手探りで指導環境を整備し、そして学生に向き合っていると考えられる。看護師として従事する傍らで臨地実習指導者としての機能・役割を果たそうと模索し苦悩する臨地実習指導者たちは多大な負担感と指導上の困難を抱えている。

以上のような臨地実習指導者個人の自主的な努力に依存した臨地実習を続けることは、近い将来、看護学教育の核となる臨地実習そのものの意義や効果を脅かすことにつながると危惧する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、臨地実習指導者に期待する役割の見直しと役割を果たすための対策を検討することである。

3. 研究の方法

(1) 臨地実習指導者役割の項目抽出と検討

デルファイ法による調査に向けて、下記の方法にて臨地実習指導者の役割を示す項目を確定した。

- ①文献による臨地実習指導者役割の項目抽出と検討、②フォーカスグループインタビューによる臨地実習指導者役割の項目抽出と検討、③プレテストによる調査票の検討、④看護教員を対象としたパイロット調査による項目および選択肢の確認。

(2) デルファイ法による臨地実習指導者に期

待する役割の明確化

(3)期待される役割に対する実習指導者の認識の明確化

なお、(1)の②③④および(2)、(3)の実施に際し研究者が所属する施設の研究倫理審査委員会の承認を得た。

4. 研究成果

(1)臨地実習指導者役割の項目抽出と検討

①文献による臨地実習指導者役割の項目抽出と検討

関連文献および書籍から、実習指導者の役割を示す記述内容と行動を示す内容をすべて抽出し、類似性により整理と分類を行った。

その結果、5 カテゴリーからなる 56 項目の臨地実習指導者の役割を示す項目を抽出した。

②フォーカスグループインタビューによる臨地実習指導者役割の項目抽出と検討

実習指導を担っている看護教員の意見を基に、関連文献にはみられない臨地実習指導者の役割を示す項目の抽出を目的としてフォーカスグループインタビューを行った。対象は、基礎看護学または成人看護学実習の指導を担当する教員経験 1 年以上の看護教員 8 名とした。インタビュー結果から逐語録を作成し、逐語録から臨地実習指導者の役割が語られた内容全てを抽出した。抽出内容を整理し、文献から抽出された臨地実習指導者の役割を示す 56 項目と合わせて再度整理・分類を行った結果、【実習指導の準備】【実習の受け入れ準備】【学生指導】【病棟スタッフとの連携】【教員との連携】の 5 カテゴリーの合計 58 項目の役割を示す項目となった。

③プレテストによる調査票の検討

上記の文献検討およびフォーカスグループインタビュー結果をもとに検討した臨地実習指導者役割を示す項目から成る調査票

について、表現および選択肢の適切性を検討することを目的に、半構成的面接法によるプレテストを実施した。対象は看護教員とし、同意の得られた 5 名に実施した。面接時に聴取した意見を検討し、調査項目の表現および選択肢について見直しを行った結果、大幅な修正の必要はなかったが、調査票の属性や指導者の役割を示す項目の表現について部分的に修正を行った。

④看護教員を対象としたパイロット調査による項目および選択肢の確認。

調査票に示す実習指導者の役割項目の構成および不適切項目や選択肢の確認と、臨地実習指導に実際に携わっている看護教員が、臨地実習指導者の役割をどのように考えているのかを把握し、その後のデルファイ調査にむけての検討に資することを目的として郵送法による自記式質問紙調査を行った。対象は全国の看護系大学および看護専門学校に所属し、臨床経験が 3 年以上で、かつ、教員として 1 年以上の経験があり、基礎看護学あるいは成人看護学領域を専門とする実習指導に直接携わる教員とした。全国の看護系大学 168 校と看護専門学校 (3 年課程・統合カリキュラム校) 492 校から無作為に抽出された学校に、条件を満たす対象者数を尋ねると共に調査票配布への協力について依頼した。調査の結果、115 校 (看護専門学校 80 校、看護系大学 35 校) から調査協力が得られ、774 名に調査を依頼し 428 件の回答を得た (回収率 55.3%)。420 件が有効回答であり (有効回答率 98.1%)、所属の内訳は看護系大学 101 名、看護専門学校 316 名、不明 3 名であった。調査の結果、提示した 58 項目に不適切項目は認められず、また、選択肢を確認できた。臨地実習指導者の役割を示す項目のうち 42 項目について、全体の 8 割以上の者が、とても重要、あるいは、ある程度重要と回答

した。ある程度重要・とても重要という回答が5割以下となったのは2項目のみであった。以上から、看護教員は多くの役割を臨地実習指導者に期待していることがわかった。その内容は看護系大学と看護専門学校とで違いが認められた。

(2) デルファイ法による実習指導者に期待する役割の明確化

看護教育・臨地実習指導の専門家として、a. 看護系大学にて看護教育学の研究・教育を担当している教員、b. 臨地実習指導者講習会での実習指導関連科目の講師、c. 臨地実習指導者に関する研究の原著論文の筆頭著者および書籍の著者のいずれかに該当する者を対象として120名に調査協力を依頼した。

調査は3ラウンドまで実施し、最終的に48名が第3ラウンドまでの全てに参加した。本研究より、学生が実習目標に到達するために実習指導者に期待される不可欠な役割として、

【実習指導の準備】 【実習の受け入れ準備】

【学生指導】 【病棟スタッフとの連携】 【教員との連携】 の5つのカテゴリーから成る31項目の役割を明らかにすることができた。この実習指導者の不可欠な役割は、平常時と状況が厳しい時の二つのフェーズによって異なることが明らかになった。また、実習指導者が期待される役割を果たすためには、教員の支援が重要であることも確認できた。

(3) 期待される役割に対する実習指導者の認識の明確化

調査協力の承諾を得た医療機関168施設に所属する臨地実習指導者を対象として質問紙調査を行った。この調査は無記名自記式調査法とし、調査票の返送をもって同意とみなした。調査の結果、906名の有効回答を得た。回答者の9割以上が、実習目的・目標そして実習

の進め方を確認しておくことや、患者から実習協力の同意を得ること、学生受け持ち患者の安全・安楽を確保することなどを不可欠な役割だと認識していた。一方、関連文献の活用を学生に促すことや予習課題を提示すること、受け入れ病棟として実習指導案を立案しておくことについては意見がわかれた。

実習指導者は実際に役割をどの程度果たしているのか、その実践の程度についても調査を実施した。この結果については分析を進めている。

以上から、臨地実習指導者に期待する役割を明確にし、また、臨地実習指導者自身が期待される役割をどのように認識し、かつ、実際に役割を果たすことができているのかについて調査結果を得ることができた。分析の途中ではあるが、本研究成果を現状に即した臨地実習指導者のあり方の検討に資することができると考える。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計2件)

① Satoko Yamada, Katsumasa Ota, The Essential Roles of Clinical Nurse Instructors in Japan, Nursing and Health Sciences, 査読有, 14(2), 2012, 229-237.

② 山田聡子、太田勝正、看護教員が期待する臨地実習指導者の役割—フォーカスグループインタビューに基づく検討—、日本看護学教育学会誌、査読有、20(2)、2010、1-11.

[学会発表] (計3件)

① 山田聡子、太田勝正、臨地実習指導者の役割に対する看護教員の認識に影響する要員、第30回日本看護科学学会学術集会、2010年12月3日、札幌コンベンションセンター.

② 山田聡子、太田勝正、看護教員が重要だと考える臨地実習指導者の役割、日本看護学

教育学会第20回学術集会、2010年7月31日、
大阪国際会議場.

③山田聡子、太田勝正、フォーカスグループ
インタビューによる臨地実習指導者役割
の検討、日本看護学教育学会第19回学術集
会、2009年9月21日、日本赤十字北海道看
護大学.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 聡子 (YAMADA SATOKO)
中部大学・生命健康科学部・准教授
研究者番号：80285238

(2) 研究分担者

太田 勝正 (OTA KATSUMASA)
名古屋大学大学院・医学系研究科・教授
研究者番号：60194156